



童話  
石屋さん

鯖江幼稚園 山本ゆき子

大きいお寺の横に大きい大きい杉の木がありました。その杉の木の下に小さい低い御家がありました。そのお家に石屋さんが住んで居りましたがこの石屋さんは若い人で丸いお顔をして居ました。そうして何時もにこ／＼して歌をうたひながらカッチン／＼、ミ石を割つて、燈籠やお地藏様なごを拵へて居ました。此の若い石屋さんは雨が降つても雪が降つても、朝早くから毎日一生懸命にお仕事をし、てゐました。今日も石屋さんはお地藏様を拵へようと思つて、朝早くからカッチン／＼と始めましたが何だかねむくなりましたので、いつのまにやらグウ／＼とねむり出しました。石屋さんのお室の隅には小さい穴があいてゐました。する／＼その穴から白い大きな石が飛び出して來ました。此の石は少し高い石の上にヒツミ上つて行つて可愛いお目々をして、



「お仕事のお手傳ひを仕て上げよう、仕て上げよう、仕て上げよう」三度手を上げて言ひました。するに石屋さんのお庭に居た小さい黒い石ころがみんな元氣に起き上つて、手に小さい金槌を持つてカッチン／＼とお仕事を始めました。暫くしてから立派なお地藏様が出来上りました。黒い石の子供達は嬉しくて／＼たまらず、そのお地藏様のまわりに御手々をつないでお唱歌をうたひ始めました。

元氣のいゝ石屋さんはやつぱりグウ／＼ねむつて居ましたが餘り賑やかなので目をさまします。さうでせう、可愛らしい黒い石ころの子供達は、一生懸命に唄を唄つたりお遊戯をしたりして居ます。白いさつきの石は真中で手をたゝいて居ます。若い石屋さんは餘り面白いのでアハハ……と思はず大きな聲で笑ひます。白い石は吃驚して穴の中へ入つて行きました。澤山の黒い石の子供達は又元のように靜かになつてしまひました。お地藏様は立派に出来上つてニコ／＼していらつしやいました。